

さがしてみよう！ ⑤江戸時代のもの

大井郷土資料館 <住所 ふじみ野市大井中央2-19-5 電話 049-263-3111>

上福岡歴史民俗資料館<住所 ふじみ野市長宮1-2-11 電話 049-261-6065>

今回は「江戸時代」のことについてしょうかいします。ぜひ資料館などで調べてみてね！

★ふじみ野市は江戸時代、どんなようすだったのかな？★



江戸とふじみ野を結ぶ2つの道

★川越街道と大井宿★

江戸時代のはじめに、川越にあった城と江戸(東京)を結ぶ大切な道として、「川越街道」が整備されました。

街道には、荷物や書類などを運ぶための手続きや旅人が休けいするための「宿場」がありました。大井宿もその一つで、大名が休む「本陣(ほんじん)」のほか、いろいろな店がならんでいました。

※大井郷土資料館に行って、むかしの川越街道のようすを調べてみよう！

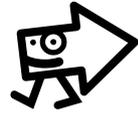
★新河岸川と福岡河岸★

江戸時代は川や海を使って、多くの荷物や人を運べるようにしました。市内を流れる新河岸川は、江戸・明治時代は、曲がりが多く、荷物を積んだ長さ15mほどの船が、川越と江戸(東京)の間を行き来していました。

養老橋(ようろうばし)のそばにあった福岡河岸は、船着き場の一つで、荷物をあつかう店などがあり、とてもにぎわっていました。

※上福岡歴史民俗資料館には、福岡河岸や荷物を運んだ船の「もけい」などがあるよ！

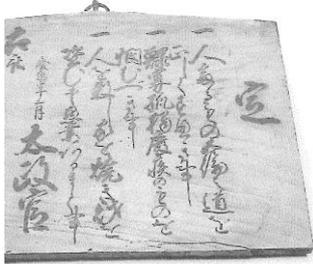
資料館で見てみよう！「江戸時代のもの」



江戸時代になると、字を読んだり書いたりできる人がかなりふえていきました。「寺子屋（てらこや）」とよばれる塾（じゅく）のようなところに通ったり、字の読み書きなどができる人に教わったりしながら、いろいろなことを学んでいったからです。村や家、店のようすやできごとを記録したもの、他の人に伝えるためのものなど…江戸時代の人たちが書いた文字を読むことで、当時はどんなことがあったのか、どのようにくらしていたのかがわかるようになります。

★村人に伝えるためには…

大井郷土資料館にあるよ！



これは、「高札（こうさつ）」といいます。

幕府（ばくふ）や藩（はん）からの命令などが書かれた板を、人通りの多い道や名主（なぬし）の家の前などに立てました。

今の「けいじ板」と同じですね。

★日本国内の旅だけど…!?



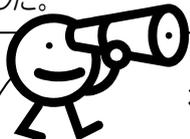
上福岡歴史民俗資料館にあるよ！

国内は、今の県のもととなる小さな「国」に分かれていました。武器や悪い人などが入らないように「関所（せきしょ）」をつくり、国境をこえる人たちは、ここで旅の目的や持ち物などいろいろと調べられました。

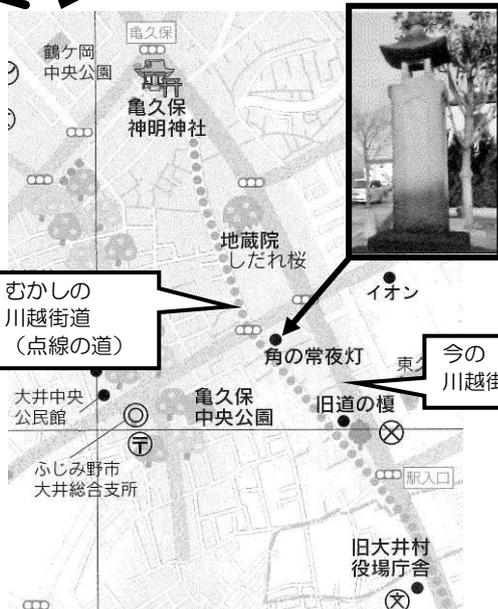
この資料は、各地の神社や寺に行きたいので関所を通してください、というパスポートのようなもので、寺に書いてもらっています。キリスト教を禁止するために、江戸時代の人々は、どこかの寺に所属していなければならず、身分を証明する書類は、村の名主（なぬし）や寺にたのんで書いてもらいました。

★川越藩の砲弾

1866年、不作と幕府と長州藩（今の山口県）の戦争があって、米や物の値段が上がって、農民や職人の生活が苦しくなって武州一揆（ぶしゅういっき）が起きました。それをしずめるために川越藩が大砲でうった砲弾が新河岸川で見つかりました。



行ってみよう、見てみよう！ 角の常夜灯



大井小学校と亀久保神明神社（かめくぼしんめいじんじや）の間に、川越街道と分かれる道があります。これは旧道（きゅうどう）ともよばれ、もともとの川越街道です。また、大井総合支所・大井中央公民館や大井郷土資料館の前を通る道は「地蔵街道（じそうかいどう）」ともよばれ、三富新田（さんとめしんでん…4年生の時習ったかな？）が開発されたところが開かれた道です。

旧道と地蔵街道が交差するところに、江戸時代の享和（きょうわ）2年（1802年）にたてられた「角の常夜灯」があります。当時は歩いて出かけた（大人の男性の足で1日30kmくらい！）ため、この常夜灯には、神奈川県の大山へお参りする人達のために、暗くなっても明かりが目印になるよう、火がともされていました。